

議案外質問(11月28日) くれまつ順子議員

JR新守山駅

西駅前広場を整備し 西側から乗降できるように



11月28日の名古屋市議会で、くれまつ順子議員は、JR新守山駅の西駅前広場の整備と名古屋空港のF35戦闘機の試験飛行について質問しました。

60年前の計画がそのまま未整備に

1960年に決定された都市計画ではJR新守山駅の西側に幅員16mの幸心線と西駅前広場1000㎡、東側に幅員18mの大永寺線と東駅前広場3300㎡が計画され、1977年に東駅前広場は完成しましたが、駅から遠く離れた西駅前広場は未整備のままです。

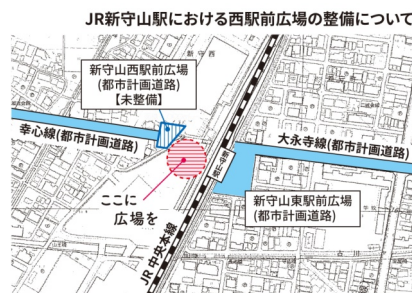
東側に改札。狭い地下通路で大変

駅西から新守山駅に入るには、幅員6mで東行一方通行の地下道を通って東駅前広場から駅舎にいかなくてはなりません。くれまつ議員は、「駅西地区の住民も1964年の駅開業時から年々増加し、駅利用者も1日約8000人になっている。西駅前広場の位置を駅に近づけるなど、見直しを進め、利便性をよくしていくべきではないか」と今後の方針をただしました。

西側から駅を利用するには新たな施設整備が必要 (住宅都市局長)

住宅都市局長は「鉄道事業者と調整して西側から駅を利用するための新たな施設を整備する必要がある。周辺の土地利用と連携して効率的に進めることが重要。今後の周辺まちづくりの動向を見極めつつ、関係者と調整するなど、必要な対応をしたい」と答えました。

くれまつ議員は「現状に合わせた西駅前広場の図面など、市がプランをしめしながら、鉄道事業者などと積極的に会合の場がもてるように、働きかけを強めてほしい」と強く求めました。



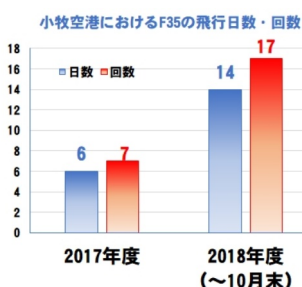
自衛隊 F-35

試験飛行中は米軍機、日米地位協定が適用 爆音まき散らす飛行をやめさせよ

42機購入予定。飛行スケジュールもわからない

守山区の上空には名古屋空港からC130輸送機やKC767空中給油機、F15戦闘機などが飛来します。昨年からF35戦闘機が加わり、住民の皆さんからは「これまでにないものすごい爆音」で飛んで行ったなどの報告があり、写真撮影もされました。

くれまつ議員がF35の飛行計画について質問し「県からの説明では、航空自衛隊が42機を取得し、試験飛行は米国管理の機体として、1機4回実施、組み立て機数の報告はなかった」と回答。飛行回数は昨年が6日で7回、今年は10月末までに14日で17回飛行したとの説明でした。



守山区上空を小牧基地方面に向けて飛行するF-35 (2018年4月19日)

欠陥だらけで危険なF35

F35は米国防総省報告書で重大な276件の欠陥が、米国政府監査院報告書でも966件の欠陥が指摘される未完全な戦闘機といわれています。こんな欠陥を抱えた戦闘機を購入し、住宅密集地上空を試験飛行することは危険です。くれまつ議員は「本村伸子衆院議員の国会質問で、試験飛行のF35は日米地位協定の適用のある航空機になる事が明らかになり、騒音が問題になっても国の防衛政策上騒音をなくせと言えない、墜落したら大惨事になる。試験飛行の中止を求めよ」と市長をただしました。

「言う立場でない (市長)」 市民の命と財産を守らないのか

市長は、「国家の安全保障上のことでございますので、私が言う立場でない」と、無責任な答弁でした。

くれまつ議員は、「万一の事故が起きた場合には、自治体で原因が追究できないことになる。全国知事会は日米地位協定の見直しを決議している。市長は市民の生命・財産を守るために力を尽くせ」と求めました。